

愛知県感染症情報

平成 12 年第 21 週 (5 月第 4 週)

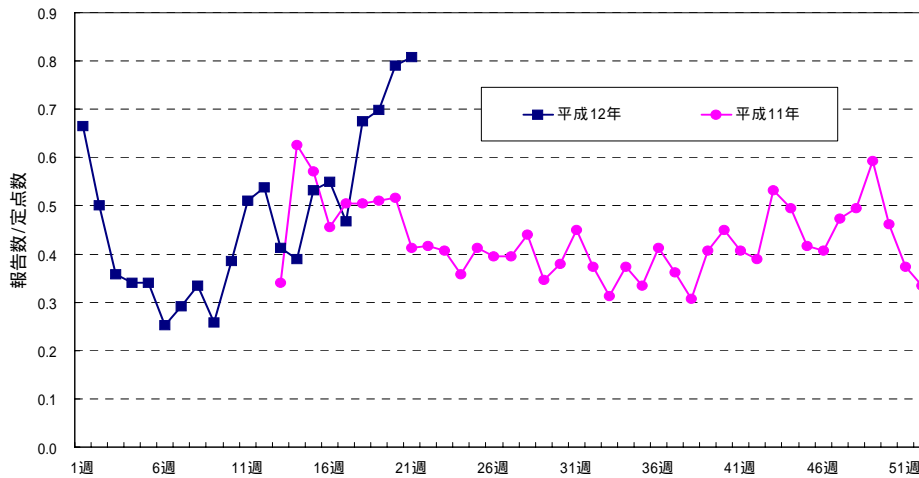
(コメント)

咽頭結膜熱及び伝染性紅斑の散発が見られます。

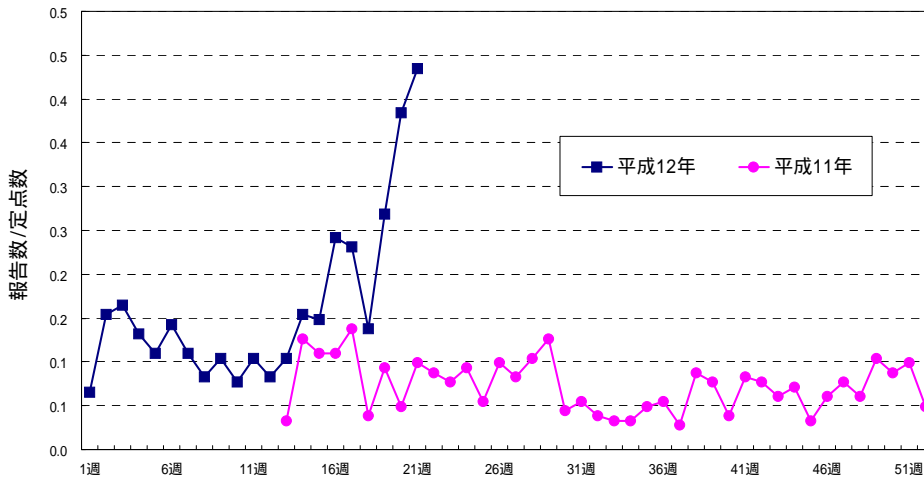
手足口病及びヘルパンギーナの報告数が増加しています。

水痘及び A 群溶血性連鎖球菌は依然流行中ですので、注意をしてい
てください。

流行性耳下腺炎及び伝染性紅斑はこれからピークをむかえます。



流行性耳下腺炎(名古屋市を含む。平成11年は、13週(4月1日~)から)



伝染性紅斑(名古屋市を含む。平成11年は、13週(4月1日~)から)

(先生方からのコメント)

● 尾張西部地区

- ・ 感染性胃腸炎 55 名中には、病原性大腸菌 0-1 2 名 (2 歳男、9 歳男)、0-25 10 ヶ月女
糞便アデノウイルス陽性者 4 名 (6 ヶ月男、10 ヶ月女、11 ヶ月女、2 歳女)

(尾西市 城後小児科)

- ・ ムンプス増えています。不明熱まだ続いています。(High CRP*)
(岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック)

* CRP (C 反応性蛋白) について

試験管内で肺炎球菌の C 多糖類と沈殿物を形成するグロブリン。血清中への出現は、感染性か非感染性かの鋭敏な指標になる。

- ・ A 群溶連菌感染症が流行しています。病原性大腸菌 O-6 4 歳男
(江南市 みやぐちこどもクリニック)

● 尾張東部地区

- ・ 水痘流行続いています。溶連菌もまだ認められます。ヘルパンギーナが 1 例あり (8 ヶ月男児)、その他、突発性発疹、ムンプス散発。感染性胃腸炎は減少傾向です。

(尾張旭市 佐伯小児科医院)

- ・ サルモネラ腸炎 O-9 1 歳男、O-8 12 歳男。

(瀬戸市 津田こどもクリニック)

- ・ 水痘症増加

(南知多町 医療法人大岩医院)

- ・ ヘルパンギーナ出始めました。

(春日井市 朝宮こどもクリニック)

- ・ 今週は咽頭結膜熱が 1 歳 ~ 5 歳までの乳幼児に流行しています。

(春日井市 かちがわ北病院)

- ・ 感染性胃腸炎多し (ロタとは違いやや年長者に多い) 高熱を発する夏感冒あり。

(小牧市 小牧市民病院)

- ・ サルモネラ O-8、O-9 各 1 例みられました。

(小牧市 志水こどもクリニック)

- ・ 水痘 4 歳女 (水痘ワクチン接種してある子です。)

(小牧市 鈴木小児科)

- ・ 伝染性単核症と診断される症例が相次いでいます。

(東海市 東海市民病院)

- ・ 伝染性単核症 4 歳男

(東海市 小児科ハヤカワ医院)

● 西三河地区

- ・ 水痘 1 歳未満児から感染

(豊田市 やふそ小児科)

- ・ サルモネラ腸炎 4 歳男、病原性大腸菌 O-25 4 歳女、カンピロバクター腸炎 2 歳女

(豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック)

- ・ 病原性大腸菌 0-1 VT1、VT2(-) 2名(3才女、1才女)
(岡崎市 にいのみ小児科)
- ・ サルモネラ 0-4群 1才女
カンピロバクター 2才男
サルモネラ 0-9群 6才男
細菌性腸炎が増加傾向
(岡崎市 花田こどもクリニック)
- ・ サルモネラ 0-7 3才男
カンピロバクター 11才男
まだ水痘多し。
(幸田町 とみた小児科)
- ・ あいかわらず水痘と溶連菌感染症が多いです。
(刈谷市 まついこどもクリニック)
- ・ 溶連菌感染症が引き続き目立ちます。
(碧南市 永井小児クリニック)
- ・ 水痘多発
(知立市 宮谷クリニック)
- ・ ムンプスが再び増加してきました。ヘルペス口内炎2例。
(西尾市 やすい小児科)
- 東三河地区
 - ・ 伝染性紅斑の子が増えています。
(豊橋市 大谷小児科)
 - ・ 川崎病3歳男(入院)
EB ウィルス 2歳女(入院)、EB ウィルス成人女性、EB ウィルス(疑)1歳女
百日咳(0歳女児)の姉が山口株(百日咳の抗体価を測る抗原)高値、百日咳(0歳女児)の兄がPT(百日咳毒素)、FHA(線維状赤血球凝集素)とも高値。特有の咳はなかった。
(豊橋市 富田小児科)
 - ・ サルモネラ、カンピロバクター腸炎が散発しています。
咽頭所見が乏しく高熱が続く患者が増えています。
(豊橋市 あずまだこどもクリニック)
 - ・ H3年に水痘ワクチン接種の14歳男、10歳女の兄弟。2週間前に兄重症水痘を発病、兄より感染したと思われる妹今週極めて軽症でした。
(蒲郡市 医療法人鈴木小児科医院)
 - ・ ロタ(+) 2歳男
(蒲郡市 蒲郡市民病院)

- ・ サルモネラ腸炎 1 名 (40 ~ 49 歳)
(東栄町 東栄町国民健康保険東栄病院)

(1 ~ 3 類感染症の発生状況)

細菌性赤痢患者 2 名。

豊田市保健所から報告の 32 歳男、5/20 発病、5/22 初診、5/24 診定。
菌型はゾンネ 。ベトナム渡航歴あり。

豊川保健所から報告の 50 歳女、5/21 発病、5/23 初診、5/26 診定。菌型はゾンネ 。

腸管出血性大腸菌感染症患者 3 名

瀬戸保健所から報告の 6 歳男 5/18 発病、5/20 初診、5/25 診定。菌型は、0-157 VT1、VT2(+).

岡崎保健所から報告の 11 歳女 5/21 発病、5/22 初診、5/26 診定。菌型は、0-157 VT1、VT2(+).

安城保健所から報告の 1 歳女 5/23 発病、5/24 初診、5/26 診定。菌型は、0-157 VT1、VT2(+).

(全数把握の 4 類感染症の発生状況)

発生はありません

第 19 週 (5 月 8 日 ~ 5 月 14 日) の 4 類感染症の全国状況

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎の定点当たり報告数が例年の同時期よりかなり多く、過去 10 年間で最大の流行曲線を描いている。患者の年齢階級別で見ると、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、3 歳から 7 歳の小児が全体の約 7 割を占め、ピークは 4 ~ 6 歳にある。感染性胃腸炎は 7 歳以下の小児が全体の 72% を占め、ピークは 1 歳にある。水痘も例年の同時期に比べ、定点当たり報告数がかなり多く、石川県で定点当たり報告数 5.8 、静岡県で 4.7 、熊本県で 4.6 、愛媛県で 4.4 、沖縄県で 4.3 、福井県と山口県で 4.2 となっている。患者の年齢階級別では、1 ~ 4 歳にピークがあり、この年齢階級で全体の 70% を占める。夏季の流行疾患では咽頭結膜熱に続き手足口病も報告数が徐々に増加し始めた。全国的にはまだ報告数は少ないが、熊本県で定点当たり報告数 4.1 など九州地方で患者の増加がみられる。麻疹は連休明け患者報告数が増加したため、例年の同時期より定点当たり報告数が多くなっている。大阪府ではさらに大きな流行となっており、千葉県、兵庫県、茨城県、香川県、埼玉県、栃木県、岡山県などでも患者報告数が多くなっている。流行性角結膜炎は茨城県、宮崎県、滋賀県、沖縄県、愛媛県などで定点当たり報告数が多くなっている。

(Infectious Diseases Weekly Report より抜粋

厚生省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供)